

関節リウマチ患者の主観的症候を軽減させるための心理・社会的支援プログラムの開発とその有効性の評価

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-06-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 平井, 孝次郎 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003376

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 38 号

関節リウマチ患者の主観的症候を軽減させるための心理・社会的支援プログラムの開発とその有効性の評価

(Development of a psychosocial support program to reduce subjective symptoms in rheumatoid arthritis patients and evaluation of its effectiveness)

平井 孝次郎 (ひらい こうじろう)

博士 (看護学)

論文審査結果の要旨

本論文は、関節リウマチ患者の主観的症候を軽減するための心理・社会的支援プログラムを開発、その有効性を検証した先駆的な研究である。研究 1 では、通院する関節リウマチ患者に質問紙調査を実施 (n=93)、主観的症候に最も影響していた心理・社会面は主観的 QOL で、精神的回復力が主観的 QOL に強く影響していることが明らかになった。これらを基盤に、研究 2 では「主観的症候を軽減するための心理・社会的支援プログラム」が作成された。プログラムは専門職者・有識者 (n=6) による検討に基づき目標設定の追加等修正が行われた。研究 3 では、プログラムを用いた非ランダム化比較試験 (n=25) が実施された。試験では 2 群間の均質性が確保できず各群で分析された。介入群 (n=16) は 1 か月で疼痛、3 か月で倦怠感が有意に改善、朝のこわばりは改善しなかった。対照群 (n=9) の主観的症候は改善しなかった。また、介入群で 3 か月で主観的 QOL 尺度得点が有意に向上、精神的回復力は向上せず、対照群でも両得点に有意な変化はなかった。インタビュー結果を質的帰納的に分析では、主観的症候の改善群で「他者との交流を大切にするようになる」という社会的特徴、非改善群では「否定的な見方をする」という心理的特徴が認められた。開発したプログラムにより、関節リウマチ患者の疼痛と倦怠感が軽減されることが示唆された。主観的症候を有する関節リウマチ患者への心理・社会的支援の重要性を明らかにした論文である。よって、本論文は博士 (看護学) の学位を授与するに値するものと判定した。